

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：12102

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2017

課題番号：15KK0074

研究課題名（和文）トルコのEU加盟問題の今日的課題とヨーロッパ国際関係をめぐる研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Turkish Accession to the EU in the International Relation in Europe (Fostering Joint International Research)

研究代表者

東野 篤子（HIGASHINO, Atsuko）

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：60405488

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,000,000円

渡航期間： 10ヶ月

研究成果の概要（和文）：EU・トルコ関係と、それが日本の対EU・対トルコ関係に与える関係に関し、ベルギー王国ブリュッセル自由大学ヨーロッパ研究所に渡航し、研究を実施した。同研究所のアレクザンダー・マッテラー教授およびルイス・シモン教授が運営する国際関係・安全保障部会に所属し、共同研究を進めた。また、両教授の人脈を活用し、EU関係者（主に欧州委員会および欧州対外行動局のスタッフ）およびシンクタンク関係者へのインタビューを数多く実施し、論文や学会報告（EU国際関係学会等）にその成果を反映することができた。また、同研究所における常設の日本研究ポストの創設にも尽力し、将来的な国際共同研究の基盤作りにも貢献することが出来た。

研究成果の概要（英文）：I stayed at the Institute for European Studies (IES) of Vrije Universiteit Brussel (VUB) for 10 months in 2017 in order to conduct research on EU-Turkey relationship and its implication to EU-Japan/EU-Turkey relationship. I belonged to the International Security Cluster (ISC) led by professor Alexander Mattelear and professor Luis Simon, and had many opportunities to exchange views and consider future avenues for my research. I was also able to conduct number of interviews EU officials, in particular those who work at the European Commission DG NEAR and the European External Action Service (EEAS), as well as several think-tankers. I was able to write several chapters for the edited books and articles, and to present my papers at several academic conferences, including 11th Pan-European Conference convened by European International Studies Association (EISA) in September 2017 and 'European Union in International Affairs' (EUIA) Conference in May 2018.

研究分野：国際関係論

キーワード：EU トルコ 日・EU関係 加盟交渉 関税同盟 EPA

## 1. 研究開始当初の背景

本課題応募時（2015 年度）には、すでに基課題（基盤（C））のテーマであった「トルコの EU 加盟プロセス」は深刻に停滞していた。本課題では、基盤（C）においては中心的なテーマとして想定されていなかったが、その後の事態の発展を受け、極めて重要テーマとなってくると思われた「EU 周辺諸国における変動およびトルコの欧州国際政治上の位置づけ」と、「日・EU 間経済連携協定（EPA）および日・トルコ EPA」の 2 本の柱を重点的に研究することとした。

また、本研究遂行のため、ベルギーのブリュッセルに滞在したが、本研究の採択連絡が入った 1 か月後にブリュッセルの空港と駅で 50 名超が死亡する大規模なテロが発生した。本研究遂行のためのブリュッセル滞在はこのテロ事件から約 1 年後に開始したが、ヨーロッパ全体においてテロの危険性が高まっていることに鑑み、慎重を期すために、可能な限り空港や大きなターミナル駅を使う移動を避け、ブリュッセル市内で調査を実施することを試みた。

## 2. 研究の目的

基課題のテーマである、「トルコの EU 加盟」をより重層的かつ具体的に理解するため、以下のサブテーマについて重点的に研究することを目的とした。

- a) EU 周辺地域（いわゆる欧州近隣諸国）の不安定化と、トルコの EU 加盟問題の相対化。とりわけ、ウクライナやジョージアなど、当面 EU 加盟が想定されない国々に対する EU の新たな政策や、旧ユーゴスラビア諸国およびアルバニアの総称である「西バルカン諸国」に対する EU の政策の変化を明らかにする。
- b) EU の世界戦略上の連携相手としてのトルコの地位の変化。
- c) トルコ・日本関係の強化及び日・EU 関係の展開に伴う、日・トルコ・EU の「潜在的三角形」発展の可能性に関する考察。

これらすべてのテーマに関し、2017 年度中は新たな政策文書が次々と発表され、そのフォローとその背景に関する聞き取り調査をブリュッセル現地で行うことには非常に重要な意義があった。

## 3. 研究の方法

ブリュッセル自由大学のヨーロッパ研究所（VUB-IES）に所属し、そこの研究協力者らの支援・助言を得ながら、主に VUB-IES 所蔵資料へのアクセスおよび識者・実務担当者らへのインタビューを実施した。

研究枠組みとしては、ディスコース分析やコンストラクティビズムのほか、これまで積み上げてきた EU 規範パワーの理論枠組みを

批判的に用いた。

## 4. 研究成果

### 研究の主な成果

VUB-IES 滞在期間の 10 か月のあいだに、上記サブテーマ a) の近隣諸国の不安定化とトルコとの関係に関しては、ウクライナ危機に関する論文を 1 本（編著に所収）、西バルカン諸国に関する論文を 2 本（双方とも編著に所収）、ディスインフォメーションと民主主義に関する学会報告を 1 本行った。

b) および c) のテーマに関しては、この両方の要素を取り入れたうえで、雑誌論文を 1 本執筆し、学会報告を 2 本行った。

また、a)、b)、c) を通じて行った膨大なインタビューは、現在執筆中の著書に取り入れている。

### 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

上記 a)、b)、c) すべてのサブテーマに関し、現地での最新の動向を踏まえ、数多くのインタビューの内容も盛り込んだ成果物を発表することが出来た。とりわけ上記サブテーマ c) に関しては、2017 年末までに日・EUEPA が基本合意されるというタイミングに恵まれ、研究内容として新規性があっただけでなく、多くの注目を集め、英文で執筆した学会報告論文は国外ですでに複数回の引用がなされていることを確認している。

### 今後の展望

上記 a)、b)、c) すべてのサブテーマに関し、まだ今後大きく変動する余地がある研究領域であり、今後の調査を継続する。また、海外における共同研究ネットワーク構築にも尽力した結果、滞在先の VUB-IES に、数年後をめどに同研究所における対日政策研究ポストが設置される見通しとなった。今後はその運営にも深くかわかることで、国際共同研究を加速していくことが可能と思われる。

### 当初予測していなかった展開とそこから得られた知見

本研究遂行のための渡航直前（数週間前）の時期に、EU の加盟国の一部がトルコとの間で過去 20 年間結んできた関税同盟の近代化のための交渉入りを、事実上拒否するとの事態が生じた。関税同盟刷新の交渉の遅れは、日・トルコ EPA にも少なくない影響を及ぼすことになるため、この EU・トルコ関税同盟近代化問題も急きょ研究課題に含め、EU・トルコ関係をより重層的に研究することを試みた。この事態に対する分析は、日本ではもちろんのこと、EU 域内でもまだ開始されたばかりであったため、本研究で得られた研究成果は可能な限り広く共有することを意識した。具体的には、現地研究者との意見交換におけ

る成果の共有や、2 回にわたる英語での学会報告で使用した。この結果、現地研究者からの反応・フィードバックも非常に充実したものが得られ、本テーマに関する今後の国際共同研究への方策も広がった。

#### 5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

東野篤子「EU・トルコ関係の現在」『アジア研究ワールド・トレンド』第 256 号、pp.38-39, 2017 年。単著。査読なし。

〔学会発表〕(計 3 件)

Atsuko Higashino, "Relations between the EU, Turkey and Japan: Dissonances in the strategic triangle?" at 'European Union in International Affairs' (EUIA) Conference, panel tIII-4 'No trust, no democracy, no partners? The EU's struggles in its Southern Neighbourhood', Brussels, 17 May 2018

Atsuko Higashino, "Disinformation and its impact on democracy", German Marshall Fund, Japan Trilateral Forum, Brussels, 23 October 2017.

Atsuko Higashino, "Turkey-EU-Japan relationship in a changing international environment", 11th Pan-European Conference on International Relations, European International Studies Association (EISA), 16 September 2017.

〔図書〕(計 3 件)

東野篤子「ウクライナ危機とブダペスト覚書ー国際規範からの逸脱をめぐる国際社会の対応ー」グローバル・ガバナンス学会編『グローバル・ガバナンス学Ⅰ 理論・歴史・規範』法律文化社、2018 年、205-220 頁、単著。

東野篤子「国際関係と政治ー西バルカン諸国と EU・NATO」月村太郎編『解体後のユーゴスラヴィア』晃洋書房、2017 年、183-205 頁、単著。

Atsuko Higashino "From the European Security Strategy to the New Global Strategy of the EU: Implication for the Western Balkans", in Branislav Dordevic, Taro Tsukimura, Ivona Ladevac (eds.) Social and Economic Problems and Challenges in the Contemporary World,

Institute of International Politics and Economics, Belgrade. 2017, pp. 58-64. 単著。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

ホスト機関である VUB-IES ホームページ  
<https://www.ies.be/>

2017 年 9 月の学会報告(EISA)での成果に関する IES ホームページ  
<https://www.ies.be/node/4234>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

東野 篤子 (HIGASHINO, Atsuko)  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号： 60405488

##### (2) 研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

Alexander Mattelaer  
ブリュッセル自由大学・ヨーロッパ研究所・  
副所長・教授

Luis Simon  
ブリュッセル自由大学・ヨーロッパ研究所・  
教授

〔その他の研究協力者〕

Thomas Diez

チュービンゲン大学・政治学研究所・教授

Dr. Bettina Ahern

チュービンゲン大学・政治学研究所・講師

Dr. Hrant Konstanyan

Centre for European Policy Studies・上席  
研究員